

日本の血生きたる誇り

父を捜して

下

オランダ日系2世の

戦後69年

オランダ中部のフーペラ
ーケンに住むオスカー・ラ
モスさん(41)は昨年、国内
の盆栽コンテストで、最優
秀賞に輝いた。母のアント
ワネットウさん(68)は日系
2世。自宅の庭の棚には30
鉢ほどが並んでいた。

実母を「姉」と思い

「きれいだな、と思って

始めた。血が関係している
のかな」とオスカーさん。
祖父が日本人と知ったの
は、小学生の頃だ。「おじ
いちゃん是谁？ 捜さない
の？」。母に繰り返した。
アントワネットウさん
は、オランダが長い間植民
地にしていたインドネシア
・ジャワ島東部のマラン生
まれ。7歳の時、育ててく
れていた祖母から、姉と聞
かされていた人が実母で、
実の父は戦時中、インドネ
シアを占領した日本の男性
だと知らされた。「口外し
てはダメ」と諭された。

祖父母の実子3人とは扱
いが違った。新しい服も好
きな食べ物も与えられな
い。悪いことをすると、
「ほーら、あんたは日本人
だから」とののしられた。
一家は1958年にオラ
ンダへ渡った。結婚後、男
の子3人に恵まれ、世話を
続けた祖母は94年に死去。
「ルーツを知りたいがる子ど
ものため、父親を捜そう」
との思いが頭をもたげた。
出生直後の、アントワネ
ットウさんの洗礼証明書に
記された父の名は「アカサ
カ」。缶詰や食べ物を持っ

て家にきていた、合気道を
教えてくれた、などと親族
は話す。でも実母は「知ら
ない」の一点張り。何も語ら
ず、2年前に亡くなった。
「厳しい子ども時代だっ
たけど、私は生き抜いた。



オスカーさんと話すアント
ワネットウさん(左)とオ
ランダ・フーペラーケン

辛抱強くないいろいろなことを
やり抜く力は、日本人の血
なのかもしれない。そのこ
とを誇りに思う」とアント
ワネットウさん。オスカー
さんは「生きてはいないと
思うけど、自分の遺伝や興
味が、どこから来たのか知
りたいんだ」と話した。

父に会いたかった

アムステルダム郊外に住
むアントニウス・フックさ
ん(69)は、父親の身元がわ
かった、数少ない2世の一



アントニウス
・フックさん

人。96年に日本人の協力で
判明したが、その1年前に
父は死亡していた。生前、
インドネシアに子どもがい
たと、妻に話していたとい
う。事情を聞いた日本の長
男はフックさんと会うこと
を承諾。だが、直前に急死
し、その後、ほかの家族の
反対で、親族らと会う夢は
かなわなかった。
99年には2世らを招く外
務省の事業で来日。ひっそ
りと父の墓前に立った。
「父さん、会いたかった」。
孤児院でのつらい少年時代
を思い出し、泣いた。

「父の遺産がほしいわけで
はない。嫌なら交流しなく
てもいい。せめて、父の写
真だけでももらえないだろ
うか」と切望する。
2人の子は今、祖父の墓
に彫られている家紋を、腕
に入れ墨しようとしてい
る。「自分のルーツとのつ
ながりを、どこかに刻んで
おきたいのじゃない」とフ
ックさんは寂しげだ。「で
も私はラッキーな方。まだ
父親を捜している仲間は多
い。一人でも多く身元がわ
かるよう、祈っています」
(編集委員・大久保真紀)